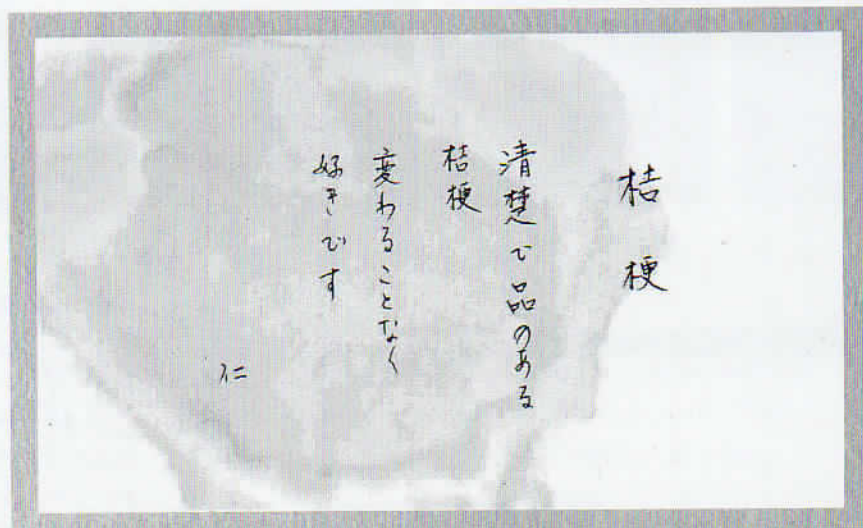


里山の風景





もくじ

表紙 絵・題字	山本 仁恵	1
もくじ 表紙の言の葉	山本 仁恵	2
巻頭エッセー 「時の音」	八木 正江	3
2016年度 定期総会報告	近藤 こよ美	4
熊本地震の被災地を歩く		
— 南海プレート巨大地震への備えを急ごう —	野口 政司	5-7
里山の家 竣工 — 神の間のある家 —	野口 政司・路万	8-9
ここちよい風景 8 — 山国・深山のかやぶき集落 —	河野 真理	10-11
田んぼ探検隊 2016	近藤 こよ美	12
「コウノトリ・ナベツル徳島フォーラム」報告	津嘉山 郁子	13
めぐ便り	石川 (佐々木) めぐみ	14
活動報告・行事予定・入会のご案内	近藤 こよ美	16
紅葉山だより	石原 禮子	16
あとがき	永田 公子	16

(カット) 石川 (佐々木) めぐみ



巻頭エッセー 「時の音」

NPO 法人 里山の風景をつくる会 理事

八木 正江

コラムに名前を付けることになりました。「時の音」と名付けましょう。今、皆さんにはどんな時の音が聞こえていますか。心地良い時の音ですか？ それとも、背筋をぞっとさせる時の音ですか？ 8月15日太平洋戦争終戦の日がもうすぐやってきますが、不気味なわだちの轟音から71年、その月日を今日まで生きてきた一人として、どうしても書いておかなければならないことがある、その事に思い至り筆を進めます。

ご存知ですか？「誰の子どもも殺させない！」という詩のあることを。作者は埼玉県生まれの絵本作家、浜田桂子さん。安保関連法が国会を通されてしまったと聞き、この詩をひっさげ全国の母親に呼びかけ直ちに抗議の行動に。その時の心の叫び、呼びかけのキャッチフレーズです。

「戦争はさせない、戦争はしない、誰の子どもも殺させない！」これを始めて聞いた時、私は、大地がぐらぐらと揺れているような感動を覚えました。戦争法と言われる一連の法律が簡単に国会を通過していき、何気ないふつうの暮らしがいつも簡単に壊されてしまいそうな現実に直面、理不尽なこの現実に立ち向かう術は、今を生きる一人一人の私たちの、「それは絶対にダメ！」という声を集めて立ち向かうしかないのです。

その呼び掛けになんとふさわしく、なんと鬼気迫るフレーズでしょうか。新宿や渋谷の駅前にこのプラカードを持った母親たちが、ずらっと立ち並んだ5月5日子どもの日、暦の上では立夏。夏空の広がる、真夏のような暑い日だったそうです。

そしてここにまた、忘れられない小説「ある晴れた日に」が頭をよぎります。そう、71年前の1945年8月15日、酷暑、終戦の日を描いた加藤周一の感動的な小説の題名です。「……ある晴れた日に戦争は来たり、ある晴れた日に戦争は去った」と結ばれるこの小説を作者はこうメッセージします。「ある晴れた日に戦争は終わった。1945年8月15日の青空と輝く白い雲とを、私は複雑な気持ちで眺めたが、その気持ちを物語の形で明らかにしようと試みたのが、この小説である。……私は、この小説を、戦争で傷ついた若い日本国民のすべてに捧げたいと思う……」

今年2016年7月。抜けるような青い空に目くるめく夏の太陽の下、私たち主婦数人は日々街頭に立ちました。なぜでしょう？そうです、「あの年のあの晴れた日が、子どもたちから未来を奪う歴史の分岐点だったのだ」などという暴言を間違っても言わせてはならない！と祈るような気持ちでいっぱいだったからです。迫りくる不気味な「時の音」を跳ね返す意志を、一人でもたくさんの人たちに伝えたかったからです。誰もがからからと明るく笑える日々のために、決して目をつぶってはいけないことがある、そのことを伝えたかったからです。



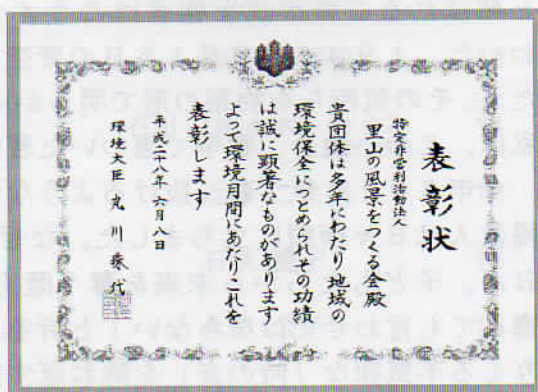
6月11日、ビオスホールにて、NPO法人里山の風景をつくる会の定期総会を開きました。50名の会員のうち、37名（内委任状22名）の参加があり、2015年度事業報告案、2016年度次号計画案及び役員改選の件のすべての議案に全員の承認をいただき、無事に総会を終了することができました。

新役員をご紹介します。

代表理事	近藤こよ美	理事	河野 眞理	監査	井内久美子
副代表理事	永田 公子	理事	佐伯 昌昭	監査	辻 智子
理事（会計）	津嘉山郁子	理事	野口 政司		
理事	石原 禮子	理事	宮本 久恵		
理事	大崎 訓子	理事	八木 正江		

新年度は、毎回たくさんの参加者を迎えて開催する田んぼ探検隊を引き続き行うとともに、里山の家づくりを通した山とまちのつながりを深めていく活動を充実させていきたいと思ひます。

また、この度環境省より「吉野川流域の自然環境を守るため、源流域の木材を活用した家・家具づくりや里地里山の生きもの観察等を行い、森を守り美しい里山の風景をつくる活動に取り組んでいる」ことにより地域環境保全功労者表彰を受けました。これからも会員の皆様とともに、活動の輪を広げていく所存ですので、変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたしします。



熊本地震の被災地を歩く

— 南海プレート巨大地震への備えを急ごう —

NPO 法人 里山の風景をつくる会 理事

建築家 野口 政司

4月14日～16日に発生した熊本地震では、観測史上初めてとなる震度7の揺れが2回起こりました。それにより木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の構造に区別なく、多くの建物が被災し倒壊しました。



1階のピロティ・店舗部分が崩壊したコンクリート造のビル（熊本市内）

5月に被災地の熊本県を歩きました。大分県湯布院側から熊本県に入り、小国町、南阿蘇村、西原村、益城町、熊本市と巡りました。現地の方々は、私が思っていたよりたくましく、けっして災害に負けてはいませんでした。

同じ九州出身の友人の話では、熊本県人は『肥後もっこす』とあって、『土佐いごっそう』、『津軽じょっぱり』と並んで『日本三大頑固もん』と呼ばれており、明るく陽気で、人情があり、負けん気の強いお国柄だそうです。

そのエネルギーで復興に向けて力強く立ち上がっていくことでしょう。

今回の熊本地震の特徴としては次の点が挙げられます。

- 阪神大震災と同じ活断層のずれによる内陸型地震である。
- 2つの断層帯で地震が連動し、震度7が2回発生した。
- 火山の噴火によってできた軟弱な地盤の地域で被害が大きかった。
- 温暖な季節で、夜中の発生であったため火災が少なかった。
- 津波が起こらなかったこともあり、地震の規模の割には人的被害が比較的少なかった。



5月5日の子どもの日に西原村保育所を訪れました。ちょうどその日くまモンが久しぶりに登場し園児たちも大喜び

先日、2016年版の地震動予測地図が発表されました。2016年から30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が示されています。

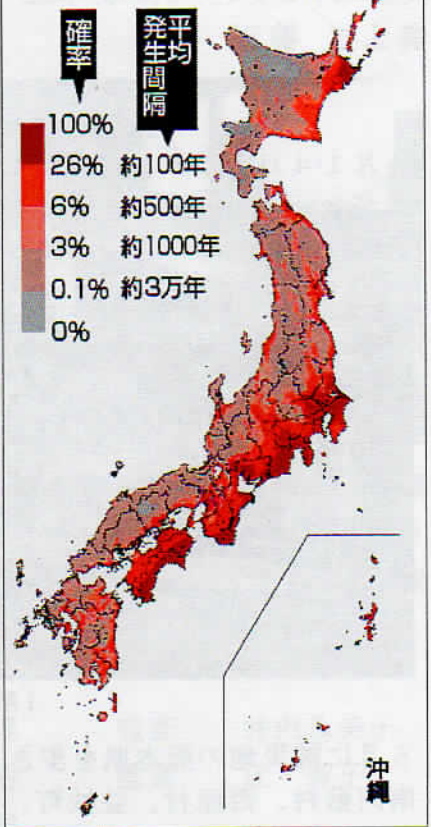
徳島市はそれまで69%だったものが71%に。高知市は71%から73%になり、全国的に見てもっとも確率が高い地域とされています。南海トラフ巨大地震がいよいよ近づいていることを予測地図が示しています。

南海プレート巨大地震は、発生後その大きさから『西日本大震災』と呼ばれる可能性が大いにあります。

ところで、この予測地図には、4月の熊本地震はおり込まれていません。地震が起こる前の時点で地図が作成されたからです。それによると、熊本市は7.6%となっていました。その予測の低かった熊本に震度7の巨大地震が28時間の内に2回も発生したのです。

それでは、私たち四国に住む者は、今回の熊本地震から何を学び、どのような準備をすればいいのでしょうか。

全地震の震度6弱以上確率
(2016年版30年以内、政府調査委)



1. 耐震改修を急ぐ — 徳島県は1981年の新耐震基準以前に建てられた古い家屋が35.6%で全国都道府県で8番目に多いのです。又高知県は33.3%で全国17番目です。ちなみに熊本県は32.5%で全国22位でした。(住宅・土地統計調査から)
2. 耐震シェルター、耐震ベッドの設置を — 耐震改修の費用と時間がかかりすぎる、又家族数が減ったのに、家全体を改修するのはもったいないと考える方には最適かもしれません。設置に対して補助制度もあります。
3. 寝室の工夫 — 家の倒壊や家具の下敷きになっての圧死を防ぐために、家具を壁に固定する。部屋の扉の開閉を邪魔する家具を移設、撤去。できるだけ上に階のない部屋を寝室にするなどの対策が重要です。

さて東京都では、小池ゆり子さんが女性初の都知事に選ばれました。公私混同問題で辞任した舛添要一前知事は、海外出張と美術館巡りのほかは何もしないで湯河原の別荘で風呂につかっていただけのように言われていますが、実は彼の唯一とんでもない仕事があります。それは2015年9月に『東京防災』という本をつくり、都民に無償で配ったことでした。

30年以内に70%の確率で発生すると予測される首都直下地震に備えて、どのような準備をすることが必要かを書いた本です。小冊子ですが、300ページに及ぶ中身の濃いものです。

『東京防災』に書かれていることで、私たちの参考になるものを以下に抜き出してみました。

『今やろう』—10の防災アクション

- 日常備蓄 ○非常持ち出し袋
- 大切なものをまとめる
- 部屋の安全を確認 ○家具の転倒防止
- 耐震化のチェック ○避難先の確認
- 家族会議 ○災害情報サービスに登録
- 防火防災訓練への参加

以上のほか『東京防災』には、簡易おむつやランタン、食器、簡易コンロの作り方からロープの結び方まで、実際に役立つアイテムが満載です。

定価は130円+税+送料です。希望される方は野口建築事務所(088-655-1616)まで。(ネットでも公開されています)



簡易おむつの作り方

材料 | レジ袋、お返し(またはおせんぼ)、バスタブ



大きめのレジ袋を用意します。持ち手の端と両端を切って割きます。その上に清潔なおしりタオルなどを巻込んで蓋をします。

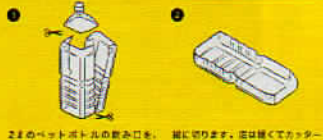


下側の持ち手部分を丁寧な縫製で縫い合わせ、お尻からお腹の前に入れ込みます。

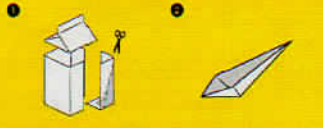
201

食器の作り方

材料 | ペットボトルの飲み口、紙コップ、バスタブ



2本のペットボトルの飲み口をカッターで切り取ります。手で折らないよう注意してください。



500mlのペットボトルの上の三角部分を切り取り、縦4つに折り分け

201

簡易ランタンの作り方

材料 | 懐中電灯、白い紙コップ、バスタブ



懐中電灯にかぶせた白い紙コップの持ち手を、懐中電灯に結び付けます。紙がより強固に響くようになります。



口のペットボトルを懐中電灯より5cmほど低い位置で切り取り1〜2cm

204

神の間のある家 竣工

野口 政司・路万



神の間、そしてリビングと一体にできる茶の間・仏間を備えた住宅が完成しました。

建主さんはとても信心深い方で、神の間はこの家で一番重要な部屋でした。神の間は神聖な雰囲気を生み出すためにトップライトからの採光を基礎照明とし、障子紙が和らげた空からの光が部屋に降り注ぐようになっています。夜は障子内に仕込んだ間接照明が暖かな光で部屋を照らします。



屋上にはトップライト・ソーラーパネル・太陽熱温水パネルを設置

茶の間・仏間・リビングは普段は独立した部屋ですが、障子と可動間仕切りを引き込むことで1つなりの部屋とすることができ、大勢の人を招くことが多い建主さんのライフスタイルに合わせた使い方ができます。

この家は鉄筋コンクリート造ですが、可能な限り木や和紙、珪藻土などの自然素材を用いており、里山の家の理念を生かした建築となっています。





かやぶき集落

今回の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）の「美山かやぶきの里」の「美山」は、やはり本来「深山」であろう。それほど山は深い。

実は、徳島からその地をめざすと、一日の行程として、とても遠い。京都の市街をぬけ、京北町（名の示すとおり現在は右京区に合併）をもう一つ山越えして、川端康成の『古都』に美しく描かれている周山（しゅうざん）街道をひたすら北上し、由良川（日本海に注ぐ）水系を東へ少し遡る地域である。もう若狭は近い。

私が4月に行った時に、桜の候だったせいかな、この深い山中の一面にどれほどの外国の人々が集まっていたか。中国系・欧米系の人々に混じる三分の一が日本人。日本昔話に出てきそうな、絵に描いたような田舎風景に、人はこんなに魅かれるものなのだろうか？

日本の心の原風景が外国の人にも？



この家屋の特色は、①入母屋造りの茅葺きで、②屋根には「馬のり」とも呼ばれる「千木（ちぎ）」と「烏どまり」とも呼ばれる「雪割り」が乗る。合掌造りほどの傾斜はないが、やはり、冬に雪が多い工夫である。また、③「あげ庭」と呼ばれる、居間との段差の少ない土間。そして、幕府領、丹波篠山藩領と支配権は替るが、山林は禁裏御領となり、材木や板材が豊富なため、④板壁、板戸で成る。その南の保津川<大堰川（おおいがわ）>水系の山国の杣山（そまやま）では、木材や筏流しが有名であるが、由良川は日本海に注ぐ川であり、木の利用も板材、木炭の産出となる。

この集落の美しさは、統一感であると思う。ほぼ同規模・同型の家屋が、南の由良川に平行した何本かの道に並列して建っている。また、大木がなく、家々には多様な花々が咲いて心が和む。3時過ぎにはランドセルを背負った小学生が帰ってきた。人の住む集落である。

そして、この民家はこの重伝建の北地区だけでなく、南地区やその他の近在の集落にもしっかり建在であった。外はトタンで被覆されているが、入母屋の一定の傾斜を持つ家々も少しずつではあるが茅葺きに再現されつつある。

北地区での重伝建の人気の茅葺きの技術が伝承され、職人の育成も良好だと聞く。由良川の河原は、りっぱな茅場（茅葺きの材料を育てる場）である。

都会よりの移住希望も多いと聞く。

守らないと守りきれないものが、ここ「美山かやぶきの里」では守られ始めているらしい。

コトンコトン ギィ〜、水車のまわる音が水しぶきにはじかれるように瑞々しく響きます。

ここは、田んぼ探検隊「赤腹イモリを捕まえよう」を行う田んぼのあるところ。勝浦川から引いた水路に5基の水車がまわり、田んぼに水を入れていきます。今年も5月末に生きもの観察会を開きました。お世話くださったのは、上王子特質米の生産者北野政美さん。北野さんはこの地に生まれ80年、田浦の田園風景を愛し、この風景を守るために農業はやめられない、とお米やみかん、アスパラなどを育てています。



平成元年より地域の仲間とともに上王子特質米生産組合を立ち上げ、19年にモミの温湯殺菌処理をすることで有機米にまで生産技術を向上させました。協力して水車を管理し、蛍の棲める環境や冬みず田んぼにも取り組み、今はお米の有機JAS取得を目指しています。

この時期、年に一度だけ水車の掛け替えをするために数時間勝浦川からの取水をストップする間、地域の子どもたちが水路に入って魚取りをする恒例行事や、地域ぐるみの蛍祭りが行われます。また収穫の秋には田浦の4つの神社が屋台を出して秋祭りを盛り上げます。一昨年には北野さんの田んぼのお米が新嘗祭に献上されることとなり氏神様である上王子神社の神主さんと氏子である仲間たちが古式ゆかしく稲刈りをしました。これらの取り組みはこの地域に人が住み農を営むことで可能となり、祭りなどの風習や地域のつながりが受け継がれ、そうして立ち現われるのがこの田浦の里山の風景なのです。



献上米稲刈り風景

そばを流れる勝浦川の河原は鳥たちの格好の棲家となり、数年前にはコウノトリも舞い降りてきました。多様な生きものを育みながら田畑を耕す自然と人の共生社会が持続していくために、近郊に住む人々がどのような役目を担えるのか。それを学ぶのが田んぼ探検隊です。



勝浦川下流にて

「コウノトリ・ナベツル 徳島フォーラム」報告

理事 津嘉山 郁子

豊岡市で放鳥されたコウノトリが
レンコン畑の広がる鳴門市で巣作
りをし、ナベツルも昨年四国へ4
00羽、そのうちの130羽が徳
島で越冬したことを受け、生息地
や餌場となる田んぼや湿地の生物
を増やす取り組みを考える「コウ
ノトリ・ナベツル徳島フォーラム」
が7月2日に開催されました。



雪景色の中のナベツル（阿南市） 撮影 三宅 武さん

ラムネット共同代表の呉地正行氏からは田んぼ生物多様性向上10年プロジェクトについて、日本野鳥の会の金井裕氏からは、コウノトリ・ナベツルの生態と習性について貴重な話をいただきました。野鳥の会県支部長の三宅さん、冬水田んぼや有機稲作づくりをされておられる滝口氏、小山氏、北野氏、そして田んぼ探検隊を続けている里山の風景をつくる会が、現場からの声を伝えました。

大型野鳥の飛来は、彼らの胃袋を満たすほどの餌場が徳島にはあるということを示しています。徳島には、豊かな森から発した1級河川吉野川水系、那賀川水系と、勝浦川のような2級河川39水系が流れ、その流域に恵みを与えながら海と合流しています。人や生き物が受けるその恩恵は計り知れないほど大きいものなのです。私たちは果たしてその恩恵に気が付いているのでしょうか。大切に付き合っているのでしょうか。

私たちは田んぼ探検隊で自然にやさしい農法をする人々と接するうちに、彼らの田んぼは生物多様性に富んだ土地になっており、コウノトリやナベツルが飛来することを学びました。そこでは山、小川、田んぼと、そこに生きるいろんな生き物の素敵な交流が肌で感じられます。また干潟観察会をしている吉野川とその流域では、そこから得られる恵みは、米、野菜、魚類、海藻と多種に及び、昔から賢明な利用と保全がなされてきました。干潟では絶滅危惧種に指定されている希少種といわれる生物がうじゃうじゃおり、広大な風景にも癒され、参加者は豊かな生き物のつながりを感じ、学び、いっしょに泥にまみれ歓声を上げます。田んぼ探検隊も干潟観察会もあふれるばかりの人で賑わいます。沖の干潟でも多くの鳥たちの姿が観察されます。

私たちは、この豊かな吉野川河口から第十堰までの汽水域をラムサール条約湿地に登録しようと活動しています。国際基準も満たしており、すでに河口域は、環境省の「日本の重要湿地630」に選定され、また「東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワーク」にも登録されています。次回ラムサール条約締約会議は平成30年にアラブ首長国連邦のドバイで開催されます。この機会を逃さず、生物多様性に富んだ、大きな干潟の広がる吉野川流域の登録を目指しましょう。

みなさまお元気ですか？

居を移して3度めの東海地方の夏がやってきました。最高気温が徳島よりも沖縄よりも高い日がけっこうあり、周りに山もなく過酷な暑さです！

こちらでの友人たちの間では、パーマカルチャー、ニホンミツバチやヤギの飼育などが今熱いです。

私と息子はまだ踏み入れずにいますが、どうやら知多はなかなかおもしろい場所らしいのです。



私たち一家は今もっばら家づくり真っ最中！

岐阜に自社の山を育てている「三和木」という会社を選びました。木と土壁の家を建ててくれます。平屋で屋根は軒を深く、対面キッチンのカウンター越しに、掘りごたつを仕込んだ畳の居間をくっつけ、他の居室も和室と、現代の流れに逆行するような家です。

費用を抑えるために面積はコンパクトに。間取りにはとても頭を悩ませました。

キッチンやお風呂などの設備もほぼ決まり、間もなく地鎮祭を迎えるところです。

わかっていたつもりでしたが、家づくりって想像以上に大変ですね。その分思い入れもどんどん強くなっていきます。里山の家のような、中に入ると清々しく、木のいい香りがする心地良い家になってくれるといいな。

私はここを、自分と家族がエネルギーチャージできる癒しのパワースポットにしたいのです (笑) またお便りしますね。



家の建つ場所で息子と

石川 (佐々木) めぐみさん
もと会報編集員。「めぐ巡り」
連載とイラストを担当。2014年
に愛知へ嫁ぎ、ただいま1歳半の
息子と子育て中。

活動報告

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1月 1日(金) 会報44号 発行 | 6月 8日(水) 環境省地域環境保全功労者表彰授与式 |
| 1月20日(水) 一日農政局in小松島市 活動発表 | 6月11日(土) 総会&里山シンポジウム ヒオスホール |
| 1月23日(土) 2015年度第6回理事会 | 熊本地震から学ぶ |
| 2月14日(日) オーガニックフェスタ出展 | —今私たちにできること— |
| 2月18日(木) 2015年度第7回理事会 | 6月12日(日) 城西高校田んぼの生きもの観察会 |
| 2月20,21日 にじゅうまるプロジェクト in 名古屋 | 6月22日(金) 自然の住まい協議会 |
| 3月12日(土) ナルトサワギク一斉駆除参加 | 6月27日(月) 里山の風だより7月 発行 |
| 3月13日(日) 香美森林組合交流会 良材ネット | 7月 2日(土) コウトリ・ハブツルフォーラム ふれあい健康館 |
| 3月17日(木) 2015年度第8回理事会 | 7月12日(火) 2016年度第1回理事会 |
| 4月 8日(金) 映画「日本と原発」上映会 | 7月24日(日) 田んぼ探検隊「魚を捕ろう」100名 |
| 4月11日(月) 里山の風だより4月 発行 | 7月25日(月) 里山の風だより高知版vol.5 発行 |
| 4月12日(火) 自然の住まい協議会 | 7月30日(土) 勝浦川流域講座 田浦町 |
| 4月21日(木) 2015年度第9回理事会 | 8月 8日(月) 里山の風だより8月 発行 |
| 5月 3日(火) 田んぼ探検隊「田植えをしよう」100名 | 8月 9日(火) 2016年度第2回理事会 |
| 5月 9日(月) 里山の風だより5月 発行 | 8月10日(水) 会報第45号 発行 |
| 5月13日(金) 2015年度第10回理事会 | |
| 5月21日(土) 住宅見学会 香川 良材ネット | ※ 生物多様性普及推進協議会設立準備会 |
| 5月27日(金) コープ自然派生産者クラブ学習会 | 3.9 5.11 6.8 7.13 8.10 |
| 5月29日(日) 田んぼ探検隊「アカライモを捕まえよう」120名 | ※ コウトリ・ハブツルフォーラム実行委員会 |
| 6月 6日(月) 里山の風だより6月 発行 | 2.23 3.8 3.23 4.20 5.26 6.16 7.15 |

行事予定

- 8月28日(日) 田んぼ探検隊「稲刈り」大林町
10月2日(日) 田んぼ探検隊「収穫祭」

会費納入のお願い

2016年度会費をまだ納入されていない方は、同封の振込用紙で入金していただきますよう、よろしくお願いいたします。

入会のご案内

入会された方には会報をお送りします。イベントなどの情報も随時お知らせします。

- ・正会員 会の運営に参加してくださる方
- ・賛助会員 会の運営に賛同し会費により応援してくださる方
- ・年会費 (個人) 1口 3,000円 (団体・法人) 1口 10,000円
- ・振込先 郵便振替 016001-32810 口座名 里山の風景をつくる会



アガパンサス



シラーベルビアナ



スマイレ



夏も盛りを迎えた。

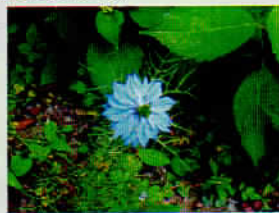
梅雨も明けていない、カッ暑くなった7月1日の夕方、油蟬がひっそり鳴いた。次の日、ニイニゼミの声。そしてやってきた。7月10日。しゃあしゃあしゃあせつせつせつとも聞こえるクマゼミの声。ぎいーちょんぎーちょんとキリギリス。ぐーうぐーうとウシガエルの声も混ざり、にぎやかな田舎の交響曲が真っ盛り。今回は畑で出会う生き物の話。

まずはありの大群。草を引き抜くと、根っこの近くから、アリがぞろぞろ。手や足に上ってきて、チクリ。あつ、痛あつ。根っこはきつと栄養がたくさんあるんだ。次は七星テントウムシ。葉っぱの中に潜んでいる。大きな白い袋を持った土蜘蛛。ムカデはそそくさと逃げていく。ある時、ピンポン玉くらいの白い卵を見つけた。さては蛇の卵？と一瞬ひるんだ。が、別の時畑を耕すと白い殻を背負った子亀がゾロゾロ。なんだ亀の卵だったんだ。庭で、大きな亀を見つけた。掘った穴を埋めた様子。庭を抜けて、コンクリートの道を通って、前の溝に帰って行った。ミカンの木の間を通ると、顔にぺしゃっと粘着物が。ジョロウグモの巣だ。蜘蛛もびっくり。とんだ獲物がかかったもんだ…。

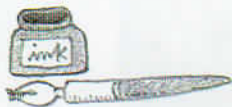
紅葉山
だより

石原
禮子

青い花々（季節は春から初夏にかけて）



あとがき



夏の夜の風物詩といえば、「花火」。
先日、徳島では「水都祭」が開催され、何年ぶり？
いえ何十年ぶり？だろうか・・・
新町川の空に花火が打ち上げられた。
川沿いには多くの見物客。
パッと夜空にひらく花、そして消えゆく残像に、
人々は何を想い、空を見上げていただろうか？
それぞれに、それぞれの夏がまた来る。

(ながた)

2016年8月10日発行

特定非営利活動法人 里山の風景をつくる会

〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示 28-53 TEL 088-655-1616 / FAX 088-655-1632

E-Mail : info@enjoy-satoyama.jp URL : <http://www.enjoy-satoyama.jp>